



## 平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成29年2月7日

上場会社名 株式会社 ほくやく・竹山ホールディングス 上場取引所 札  
 コード番号 3055 URL http://www.hokutake.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 眞鍋 雅昭  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員管理本部 (氏名) 巖 友弘 TEL 011-633-1030  
 副本部長  
 四半期報告書提出予定日 平成29年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無  
 四半期決算説明会開催の有無： 無

(百万未満切り捨て)

### 1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績（平成28年4月1日～平成28年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	175,429	3.1	1,669	△7.1	2,424	△2.4	1,501	2.7
28年3月期第3四半期	170,142	5.4	1,797	14.5	2,484	11.7	1,461	6.5

(注) 包括利益 29年3月期第3四半期 1,718百万円 (△26.6%) 28年3月期第3四半期 2,342百万円 (△4.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第3四半期	60.77	—
28年3月期第3四半期	58.97	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
29年3月期第3四半期	129,186	48,990	37.9	1,989.93
28年3月期	123,736	47,867	38.7	1,931.69

(参考) 自己資本 29年3月期第3四半期 48,989百万円 28年3月期 47,866百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	7.50	—	7.50	15.00
29年3月期	—	12.50	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	7.50	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

平成29年3月期の中間配当12円50銭の中に、当社設立10周年および当社連結子会社の(株)竹山創業80周年記念配当5円が含まれております。

### 3. 平成29年3月期の連結業績予想（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	222,000	△1.4	1,750	△27.1	2,500	△23.2	1,500	△17.2	60.72

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期3Q	25,000,000株	28年3月期	25,000,000株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	381,099株	28年3月期	220,472株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期3Q	24,703,634株	28年3月期3Q	24,779,768株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続きが実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社および当社グループが現時点で入手可能な情報に基づいております。実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
4. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	12
(継続企業の前提に関する注記) .....	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	12
(セグメント情報等) .....	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、海外経済に不確実性はあるものの、個人消費や雇用情勢に改善が見られ、景気は緩やかな回復基調が続いています。

医療業界におきましては、社会保障制度改革として医療・介護の提供体制の見直しと地域包括ケアシステムの構築が示されています。また、平成28年4月における診療報酬改定と薬価や償還価格の引下げが行われ、事業環境変化への適応力と経営の一層の効率化が求められています。

このような経営環境の中、当社グループは、事業間連携によるシナジーの最大化を目指した経営を継続して行ってまいりました。当期におきましては、医療機器卸売事業と介護事業との連携による医療・介護分野での活用をめざした、ロボット展を開催いたしました。医療機器卸売事業ではB to Cの一環として、インターネット通販事業への参入に向けた取り組みに着手いたしました。また、従業員の安全確保・健康配慮を目的として、適正な労働時間管理と労使の意識改革によるワークライフバランスの推進強化を行っております。

以上の状況のもと、当第3四半期連結累計期間における売上高は1,754億29百万円（前年同期比3.1%増）、営業利益は16億69百万円（同7.1%減）、経常利益は24億24百万円（同2.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は15億1百万円（同2.7%増）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

## (医薬品卸売事業)

医薬品卸売事業におきましては、昨年4月に診療報酬並びに薬価の改定が実施されたことによる厳しい市場環境が続いております。

このような中、高齢化の進展を背景とした生活習慣病薬、抗がん剤などの分野での売上が堅調に推移し、特に新薬の売上が好調に推移しました。また、商品のカテゴリ一別では引き続き後発医薬品売上が伸長した反面、長期収載品の売上減少が続いております。利益面では、品目ごとのきめ細かな価格管理に取り組んでいるものの、依然厳しい価格交渉が続きました。

その結果、売上高は1,293億88百万円（前年同期比0.2%増）、営業利益は9億59百万円（同10.5%減）となりました。

## (医療機器卸売事業)

医療機器卸売事業におきましては、病院新築案件による備品獲得や画像診断機器をはじめ眼科製品・手術装置関連機器などの大型機器の買い替え需要があり、堅調な売上推移となりました。また医療材料等の消耗品においても順調な売上となり、前年度を上回る結果となりました。利益面においては、診療報酬改定や価格引下げ要請の影響による利益率の低下や、前年度投資した新基幹システムおよび札幌業務センター稼働の影響による経費が増加いたしました。売上増加に伴う販売リベートの獲得等により増益となりました。

その結果、売上高は399億13百万円（前年同期比13.0%増）、営業利益は4億55百万円（同16.8%増）となりました。

## (調剤薬局事業)

調剤薬局事業におきましては、新規加入会社や新規開設店の売上が寄与し、売上高は堅調に推移いたしました。しかしながら、昨年4月に実施された薬価改定と調剤報酬改定による調剤基本料の大幅な落ち込みや、新規店舗における先行投資としての人件費増などもあり、利益面では大変厳しい状況となりました。

その結果、売上高は106億22百万円（前年同期比6.9%増）、営業利益は2億53百万円（同27.0%減）となりました。

## (介護事業)

介護事業におきましては、在宅部門での福祉用具の品揃えの充実、営業員増強による徹底したサービスなどが評価され、業況は堅調に推移いたしました。また、新規事業所の開設も売上および利益に寄与いたしました。介護保険施設運営においては、平成27年4月にマイナス2.7%の介護報酬改定が実施された影響により依然厳しい状況が続いていますが、本社支援体制の強化や介護職員の育成が奏功し好調な業績を維持いたしました。

その結果、売上高は19億85百万円（前年同期比9.1%増）、営業利益は1億62百万円（同87.8%増）となりました。

（ICT事業）

ICT事業におきましては、情報関連機器や、クリニック・調剤薬局等に対する各種パッケージ販売等については堅調に推移しました。前年に比較して大型案件が減少していることと一部開発案件の遅延もあり、売上高は前年を下回る結果となりました。利益面では、ソフトウェア開発に係る人的投資を先行し技術力と開発体制の充実につなげるとともに、開発案件ごとに徹底した原価管理を行っております。

その結果、売上高は9億81百万円（前年同期比24.2%減）、営業利益は28百万円（同150.8%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、売上債権の増加、たな卸資産の増加および仕入債務の増加等により、当第3四半期連結会計期間末には191億7百万円（前年同期比14.1%増）となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は38億48百万円（前年同期比260.1%増）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益が24億20百万円（同2.2%減）、売上債権の増加11億97百万円（同81.3%減）、たな卸資産の増加18億39百万円（同27.7%減）および仕入債務の増加51億88百万円（同45.4%減）によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は12億81百万円（前年同期比58.1%減）となりました。これは主に、有形固定資産の取得3億20百万円（同31.8%減）、無形固定資産の取得96百万円（同57.9%減）および連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得8億75百万円（同62.4%減）によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は8億4百万円（前年同期比72.0%増）となりました。これは主に、短期借入金の返済1億円（同72.4%増）、自己株式の取得による支出1億1百万円（前年同期は該当なし）および配当金の支払4億81百万円（前年同期比32.2%増）によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成28年11月4日の第2四半期決算短信で発表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計方針の変更

（平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備および構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる損益に与える影響は軽微であります。

（4）追加情報

（繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

## 4. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,345	19,107
受取手形及び売掛金	50,744	52,203
商品及び製品	14,499	16,374
仕掛品	1	3
繰延税金資産	760	576
その他	6,033	5,876
貸倒引当金	△78	△70
流動資産合計	89,306	94,072
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,704	6,582
土地	7,144	7,150
建設仮勘定	58	44
その他(純額)	517	520
有形固定資産合計	14,425	14,297
無形固定資産		
のれん	3,424	4,026
ソフトウェア	969	808
その他	113	142
無形固定資産合計	4,507	4,977
投資その他の資産		
投資有価証券	14,374	14,732
長期売掛金	369	363
破産更生債権等	19	17
長期貸付金	99	100
繰延税金資産	185	172
その他	772	767
貸倒引当金	△324	△316
投資その他の資産合計	15,496	15,839
固定資産合計	34,430	35,113
資産合計	123,736	129,186

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	68,650	74,031
短期借入金	93	55
1年内返済予定の長期借入金	2	—
未払法人税等	985	120
賞与引当金	739	505
役員賞与引当金	111	72
返品調整引当金	70	70
その他	1,142	1,309
流動負債合計	71,797	76,164
固定負債		
長期借入金	10	—
繰延税金負債	2,487	2,520
再評価に係る繰延税金負債	122	122
退職給付に係る負債	705	657
長期未払金	340	313
資産除去債務	245	255
その他	160	162
固定負債合計	4,071	4,031
負債合計	75,869	80,195
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000	1,000
資本剰余金	12,222	12,222
利益剰余金	30,147	31,153
自己株式	△120	△222
株主資本合計	43,249	44,153
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,952	6,137
土地再評価差額金	△1,109	△1,107
退職給付に係る調整累計額	△226	△194
その他の包括利益累計額合計	4,617	4,836
非支配株主持分	0	0
純資産合計	47,867	48,990
負債純資産合計	123,736	129,186

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	170,142	175,429
売上原価	157,226	162,260
売上総利益	12,916	13,168
販売費及び一般管理費		
荷造費	661	656
給料	5,549	5,705
役員賞与引当金繰入額	80	72
賞与引当金繰入額	399	423
退職給付費用	236	282
法定福利及び厚生費	948	992
賃借料	209	237
その他	3,033	3,130
販売費及び一般管理費合計	11,118	11,499
営業利益	1,797	1,669
営業外収益		
受取利息	7	4
受取配当金	216	232
受取事務手数料	301	300
不動産賃貸料	75	97
持分法による投資利益	56	81
貸倒引当金戻入額	22	13
その他	132	141
営業外収益合計	813	871
営業外費用		
支払利息	0	1
不動産賃貸原価	69	74
遊休資産諸費用	22	17
持分法による投資損失	—	1
その他	33	21
営業外費用合計	126	116
経常利益	2,484	2,424
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	16	0
その他	0	—
特別利益合計	17	0

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	22	3
投資有価証券売却損	—	0
投資有価証券評価損	0	—
臨時損失	6	—
特別損失合計	28	4
税金等調整前四半期純利益	2,473	2,420
法人税、住民税及び事業税	959	769
法人税等調整額	52	149
法人税等合計	1,012	919
四半期純利益	1,461	1,501
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,461	1,501

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	1,461	1,501
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	867	184
退職給付に係る調整額	13	32
その他の包括利益合計	880	217
四半期包括利益	2,342	1,718
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,342	1,718
非支配株主に係る四半期包括利益	△0	△0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,473	2,420
減価償却費	771	801
のれん償却額	163	209
貸倒引当金の増減額(△は減少)	37	△15
受取利息及び受取配当金	△223	△236
支払利息	0	1
持分法による投資損益(△は益)	△56	△79
固定資産売却損益(△は益)	△0	△0
固定資産除却損	22	3
投資有価証券売却損益(△は益)	△16	0
投資有価証券評価損益(△は益)	0	—
補助金収入	△0	—
売上債権の増減額(△は増加)	△6,422	△1,197
たな卸資産の増減額(△は増加)	△2,545	△1,839
仕入債務の増減額(△は減少)	9,497	5,188
未払消費税等の増減額(△は減少)	△450	10
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△15	△0
賞与引当金の増減額(△は減少)	△241	△241
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△15	△39
未収入金の増減額(△は増加)	△736	356
預り金の増減額(△は減少)	69	77
その他	△135	△163
小計	2,176	5,254
利息及び配当金の受取額	223	236
利息の支払額	△0	△1
法人税等の支払額	△1,331	△1,640
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,068	3,848

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△470	△320
有形固定資産の売却による収入	5	5
無形固定資産の取得による支出	△228	△96
投資有価証券の取得による支出	△28	△29
投資有価証券の売却による収入	—	34
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による 支出	△2,329	△875
貸付けによる支出	△1	—
貸付金の回収による収入	3	3
その他	△9	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,058	△1,281
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	55
短期借入金の返済による支出	△58	△100
長期借入金の返済による支出	△2	△35
社債の償還による支出	—	△100
自己株式の取得による支出	—	△101
単元未満株式の売買による収入及び支出	△0	△0
配当金の支払額	△364	△481
リース債務の返済による支出	△42	△41
財務活動によるキャッシュ・フロー	△467	△804
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,457	1,761
現金及び現金同等物の期首残高	19,209	17,345
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,751	19,107

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自平成27年4月1日 至平成27年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計
	医薬品卸売事業	医療機器卸売事業	調剤薬局事業	介護事業	ICT事業	その他	
売上高							
外部顧客への売上高	122,684	35,030	9,926	1,815	647	37	170,142
セグメント間の内部売上高又は振替高	6,488	290	8	4	647	1,234	8,674
計	129,173	35,320	9,934	1,820	1,295	1,272	178,816
セグメント利益	1,071	389	346	86	11	435	2,341

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（百万円）
報告セグメント計	2,341
セグメント間取引消去	△365
のれんの償却額	△147
たな卸資産の調整額	△31
四半期連結損益計算書の営業利益	1,797

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、平成27年5月1日に株式会社メイプルアカウンティングサービス（取得後、株式会社メイプルファーマシーへ社名変更）の株式を取得し連結子会社といたしました。

なお、当該事象等によるのれんの発生額は、「調剤薬局事業」セグメントで23億34百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成28年4月1日 至平成28年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						合計
	医薬品卸売 事業	医療機器卸 売事業	調剤薬局事 業	介護事業	I C T事業	その他	
売上高							
外部顧客への売上高	122,688	39,598	10,614	1,980	512	34	175,429
セグメント間の内部売上 高又は振替高	6,700	315	7	4	468	1,240	8,738
計	129,388	39,913	10,622	1,985	981	1,274	184,167
セグメント利益	959	455	253	162	28	340	2,198

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
主な内容（差異調整に関する事項）

利益	金額（百万円）
報告セグメント計	2,198
セグメント間取引消去	△303
のれんの償却額	△194
たな卸資産の調整額	△31
四半期連結損益計算書の営業利益	1,669

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「調剤薬局事業」セグメントにおいて、平成28年4月1日に株式会社カエデの株式を取得し連結子会社といたしました。

なお、当該事象等によるのれんの発生額は、「調剤薬局事業」セグメントで8億7百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。